



クリスチャンパートナーズ

通信第 88 号

-
- | | |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2012 年 12 月 1 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

主イエスの誕生

理事長 木ノ内一雄



今年も早いもので、もうすぐクリスマスです。町や家にクリスマスツリーが飾られ、サンタさんもやって来ます。教会では 23 日(日)にクリスマス礼拝、24 日(月)にクリスマス・イブ礼拝をします。礼拝後には祝会を開き、皆で主イエスの誕生をお祝いします。

クリスチャンでなくても神はおられると信じている人は多くいます。宇宙がひとりでにできたとは思えませんし、わたしたち人間も自然にあるいは偶然に生まれたとは思えません。道徳的な面を考えても、貧しく、清く、正しく生きることの意味がないとは思えません。真理、幸福、死、永遠といったことを考えても、神の存在はその概念を把握する助けとなります。人間を客観化し、視点を広げるからです。しかし、わたしたちは神がおられると信じて、神がどのようなお方であるかを知ることはできません。

創られたものが、創ったお方を理解することはできません。しかし、神は主イエスをこの世に送ることによって御自身の存在の確かなことと、どのようなお方であることを示されました。わたしたちは主イエスを見る時、そこに神を見ます。主イエスは亡き父ヨセフの仕事を継ぎ大工でしたが、30 歳になると公の伝道生活に入られました。貧しい人の友となり、彼らの苦しみ、病気、障害、悲しみなどそのすべてをその身に負われました。しかし、三年後、神と人に捨てられ十字架に付けられました。中世の修道士アッシジのフランシスコは「主イエスのことを思うと泣けて泣けて仕方がありません」と言っています。

天の父は三日後に死んだ主イエスを甦らせました。主イエスは弟子たちに御自身の復活を教えられ、天に昇り、父の右に坐しました。そして霊によって御自身を人々に啓示されるのです。主イエス御自身の命でわたしたちの罪を贖われ、それを信じる全ての人を救われます。霊となられた主イエスはわたしたちの心に宿り、共に人生を歩んでくださるのです。この主イエスがすべての存在の源であって、ご自身が真理です。

母マリアは馬小屋で飼い葉桶に寝かされている幼子に目を注ぎました。私たちもそのお方に目を注ぎます。この幼子こそ光であって、私たちの歩む道を照らし、永遠の命へと導くのです。

理事就任挨拶

神田道彦

三月から理事会に参加して下さった神田道彦氏をご紹介します。木ノ内理事長からのお誘いを受けてくださいました。大変有力な新メンバーが加えられ感謝です。

クリスチャンパートナーズ会員の皆様初めまして。この度木ノ内理事長のお誘いを受けて理事に加えて頂きました神田です。生まれも育ちも神田です。御茶ノ水駅のニコライ堂の近くで学生時代まで生活していました。当時は、中大、日大、明大そして遙か遠くに東大があり、学生街であり、商店街、住宅地でもありました。のどかな生活の匂いが漂っていました。

大学卒業後、1年間近く旅行をしました。横浜からバイカル号という船に乗り、ソ連を經由して、ヨーロッパではユースホテル泊まりヒッチハイクで巡り、アメリカではグレーハウンドバスに乗り、夜行バスで宿泊代を節約するという、気ままに目的地へ向かう今では危険が伴う旅を経験しました。欧米に滞在していた教会員のお宅にも大変お世話になり、栄養補給をさせて頂くという若さ故の甘えで、親にも大変な散財を掛ける冒険旅行でした。当時モラトリアムという言葉がはやっていましたが、将来の展望が描けない時でしたので、貧乏旅行を通して自分を見つめる時でもありました。小田 実著「何でも見てやろう」に大いに刺激を受けました。

旅行を通して人に関わる仕事に就きたいと願い、桜美林学園創立者清水安三先生に、当時学園の理事長であった霊南坂教会（両親の母教会）の牧師小崎道雄先生の紹介で拾って頂き、36年間。その後の6年間は、長崎で歴史と伝統ある活水中高の校長という大役を務めさせて頂き、計42年間中高生の成長真っ只中にある若い魂が目覚める、大切な時を共有できたことは感謝です。

木ノ内理事長との出会いは、理事長が1997年3月東京神学大学を卒業されて、旗の台にある洗足教会の伝道師に就任されて以来、そして2000年4月川越教会へ赴任されても、家族ぐるみでお交わり頂いています。草野計雄氏のご退任は、クリスチャンパートナーズにとり、その創設者として、理事長・理事としての言い尽くすことができない27年間のお働きを思う時、埋められない損失であります。私以外の理事長、理事、監事の皆様の中には創立以来ご奉仕くださっている方々もおられます。2年後に創立30周年を迎えるクリスチャン パートナーズに今参加できることは、主からのお導きであるとの思いを大切にしたいと願っています。よろしくお願いたします。

奨学生ダミさん卒業

2009年から奨学金を差し上げていたダミ・ウィスダさんが、タンジュンプラ大学教育学部を卒業されました。

卒業式に出席された高橋宣教師を通してご挨拶が届きました。



主のみ名を賛美いたします。

偉大なる神様のお助けとお守りの中で、私は無事に4年間学ぶことができ、卒業論文も完成させることができました。

私の卒業論文の題名は「ダヤック・ムアラン フォノロジー」 高橋めぐみ宣教師と式服のダミさんです。フォノロジー（音声学/音韻学）は言語・発声、音によって言葉が伝わる学問で、私はその勉強をしました。ダヤック・ムアラン族は西カリマンタンのセカダウ州に住むダヤック族の中の一つの部族です。

この手紙で、今まで学費やお祈りのご支援をくださったスポンサーの皆様へ感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

優しいお心の日本の方々を、私に与えてくださった神様に感謝いたします。そのご支援で、この貴重な学ぶ機会を私は最後まで続けることができました。スポンサーの皆様のお働きやご奉仕の上に、神様の祝福が沢山注がれると信じております。

現在、私は与えられた職場で戦いの日々を過ごしています。私が今、歩んでいる道は神様が与えてくださった道、必要とされる人でありますように、スポンサーの方々のように、私の力を必要とする人に力を分け与えられますように、お祈り下さい。

以上、私からのご報告です。今まで本当にありがとうございました。神様のお恵みがたくさんありますように。

ダミ・ウイスダ Dami Wisuda

2005年にタンジュンプラ大学を卒業し、インマヌエル中学校で教師として働いていらしたケジア・カルティカさんが新年度から校長になりました。

ごあいさつの手紙が高橋先生を通して届きました。翻訳は稲葉さんです。

尊敬する日本のスポンサーの皆様へ

日々の生活の中に健康と恵、祝福を与えてくださる神様に賛美いたします。スポンサーの皆様も健康でおられますことを願っております。

今までインマヌエル中学校の生徒たちに学費と祈りのご支援をいただき、心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

2011年と2012年度に奨学金の支援を受けていますインマヌエル中学校の生徒は、1年2年3年合わせて7人おります。6月に3年生が卒業試験を受け、お陰様で全員卒業できました。神様のお守りの下で、生徒たちは中学校を卒業し、高校に進学します。インマヌエル高校に進学する生徒も、公立高校や他の私立高校に進める生徒もいます。中学1年生は2年に、2年生は3年に進学します。

2012、2013年度に奨学金を受ける生徒も頑張っており、その中にはベスト10に入っている生徒もおります。皆様からの学費のご支援で、生徒たちの親の負担が軽くなります。私達もスポンサーの皆様のお働きやご奉仕の上に、神様のお恵みとご加護がいつもありますようにお祈りいたします。

今回、下記の内容でお祈りのご支援をお願いいたします：

1. インマヌエル中学校を支える10人の教師たちの健康と奉仕の上に、128人の生徒の指導にあたる力を与えられますように。
2. 現在、インマヌエル中学校の校舎の改装を、教育局からの援助を得て12月までに完成する予定ですが、順調に予定どおりに進みますように。
3. 生徒の将来が改善されるため、学校と保護者と社会の関係がうまくいき、お互いに力を合わせるができますように。
4. 2012、2013年度の3年生44人が卒業試験の準備で一生懸命勉強しています。彼らが卒業まで頑張れますように。

これからもスポンサー様からのご支援を、よろしく願いいたします。スポンサー様とご家族の皆様のご奉仕の上に、神様のお恵みと祝福が沢山注がれますようにお祈りいたします。

シンタンのインマヌエル中学校とのパイプ役をしてくださる高橋めぐみ先生に感謝いたします。イエス様のお恵みがいつもありますように。

2012年10月20日

インマヌエル中学校校長

ケジア・カルティカ



増田淳子さん

ガーナのバンマリグ師の働きの支援を、今後どのように継続すべきかが、昨年 12 月の理事長の現地訪問以来、理事会にとって大きな宿題でした。

11 月の理事会前に、国際協力事業団（JICA）職員の増田淳子さんをお招きして、セネガルで働かれた経験をお話しいただきました。増田さんは洗足教会の会員で、木ノ内理事長、神田理事の友人です。

お話を要約すると：セネガルは西アフリカの比較的小さい国で、フランスの植民地であったのでフランス語が公用語ですが、部族にはそれぞれの言葉があり、公教育はなかなか行き届かない状態だとのこと。気候は比較的温暖で農業と漁業が中心ですが、地下資源に恵まれないので国としては豊かになれず、諸外国の支援に頼っています。政治体制は一応民主主義でアフリカの中では比較的安定しています。95%がイスラムでキリスト教徒は 5%といわれています。日本との関係は良好で、JICA が支援活動をしています。日本の持つ高度な知識や技術を自分たちの物として吸収・自立することが、指導的立場の人材不足もあって困難です。JICA としても、セネガルの人々と同じレベルに立ってその進歩を助ける努力をしています。短期間に成果を上げるのは困難です。NGO として支援活動をするのは、もっと自由にできるかと思われませんが、その国にある何らかの組織との協力関係が不可欠でしょう。

【理事会報告】第 174 回理事会は 2012 年 8 月 6 日（月）一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2012 年 5・6 月度会計報告承認。2011 年度決算報告承認。奈須輝美監事の監査報告書受け入れ。竹澤理事から 2012 年度予算案が提示され、修正の上承認。今秋カナダで開催予定の CEO 会議への出席見合わせ。ガーナ支援に関わるコミュニケーション困難について協議。「通信」第 88 号の内容は神田理事就任挨拶と会計報告、里子へのクリスマスカード発送の依頼などで、原案を理事に送付し、承認を得たうえ 11 月中に発行予定。

第 175 回理事会は 2012 年 11 月 12 日（月）一ツ橋学士会館で開催。開会前に増田淳子氏の話の伺う。前回議事録承認。2012 年 7・8・9・10 月会計報告承認。SAC 里子からのクリスマスカード、写真 43 名分と一部の履歴書が到着。近日中に里親に配布予定。パソコン購入のためガーナへ送金したが、詳しい報告は未着。「通信」第 88 号には予定した神田理事の文と、高橋宣教師から送られた奨学生の卒業挨拶などに、会計報告・監査報告・会員異動を加え、月末に発行予定。

第 176 回理事会は 2013 年 1 月 21 日（月）一ツ橋学士会館で開催予定。

（編集後記 新しく理事会にお加わり下さった神田道彦氏をご紹介できることを、非常にうれしく存じます。草野理事が退任なさった後の理事会に、多大の貢献をしていただけたことと期待しています。

里子たちのカードはすでにお手元に届いたことと思います。ぜひ、お返事をお願いいたします。西カリマンタンの僻地から、里子たちにカードを書かせ、写真を撮って送ってくれる教会学校の教師たちと、マレーシア事務所で英文を付記し日本へと発送する・多くの隠れた善意のあることをお覚え下さい。

今年も残り少なくなり、被災地の方々がまた寒さの中に年を越されるかと思うと情けなくなります。しかし、このような人の世にイエス様は降誕されました。心からの感謝と歓迎の喜びを祈りに込めましょう。年末年始、くれぐれもご自愛ください。

鳥海百合子